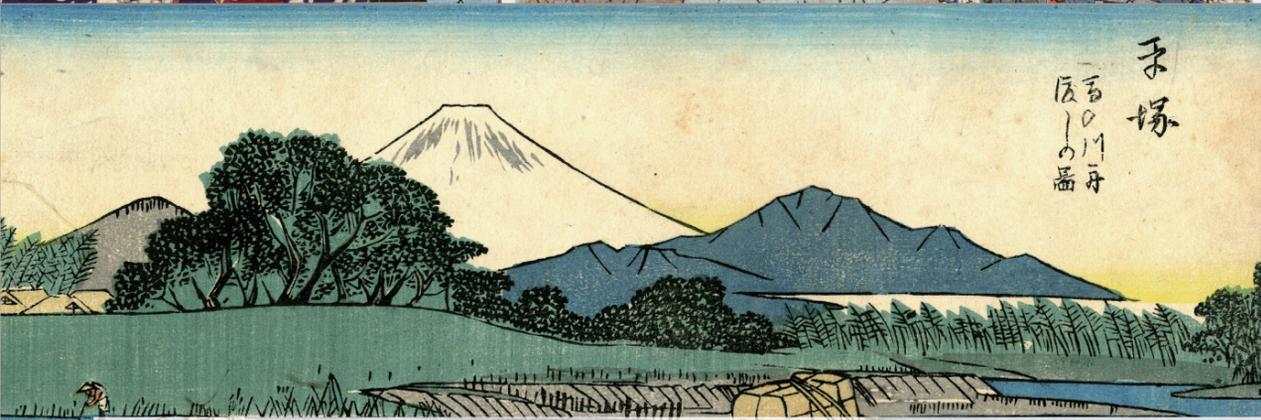
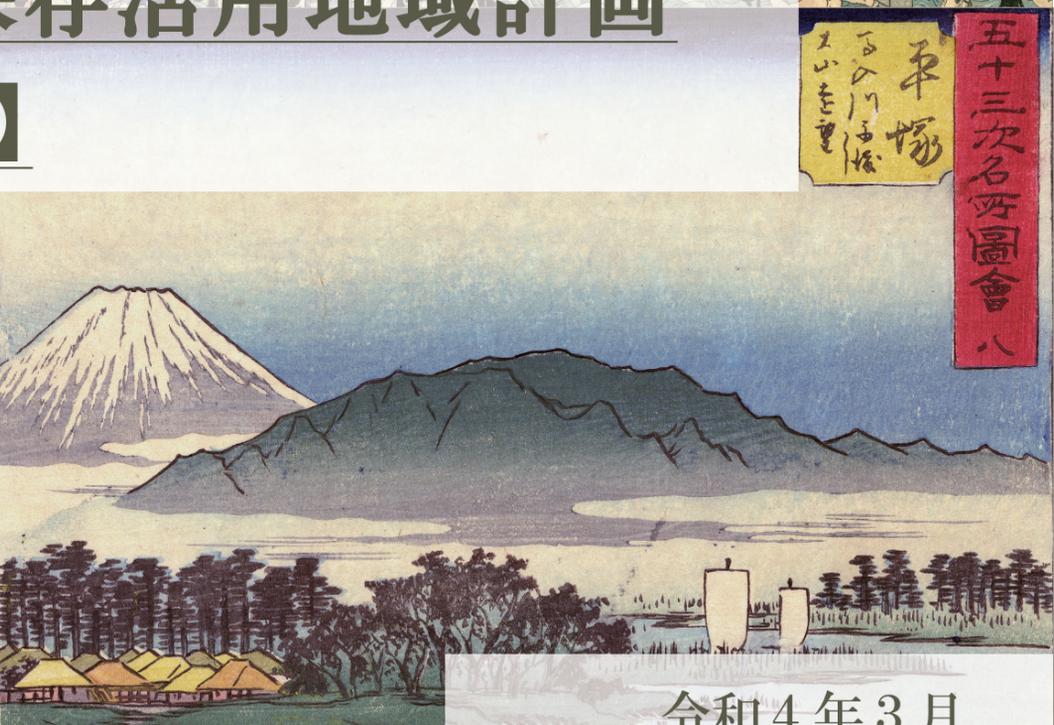
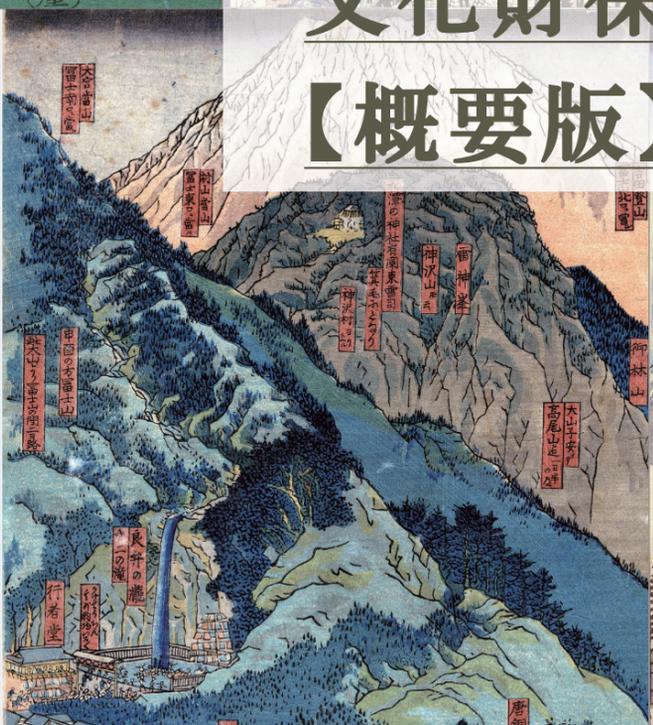
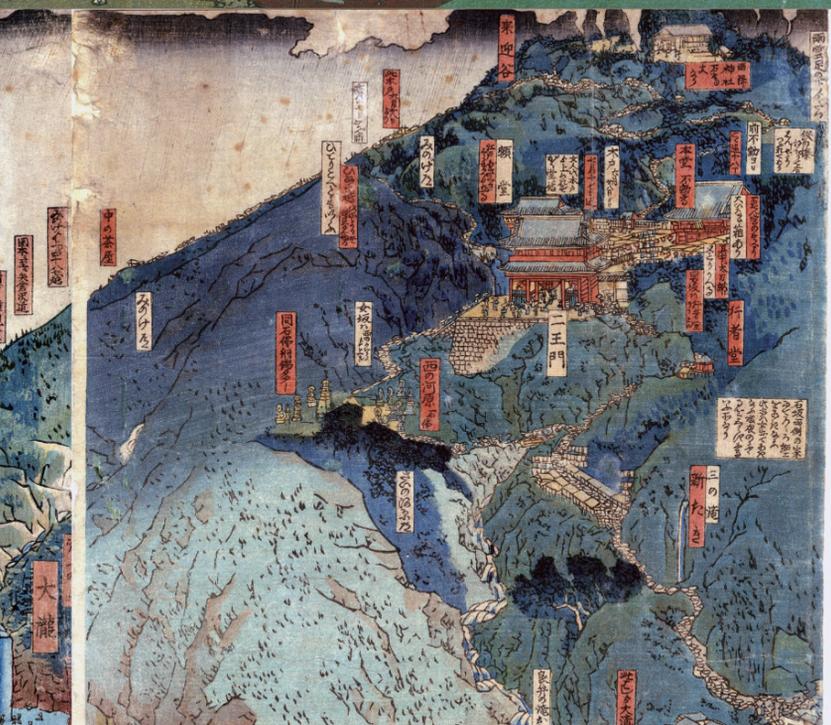




伊勢原市 文化財保存活用地域計画 【概要版】



令和4年3月
伊勢原市教育委員会

伊勢原市文化財保存活用地域計画

発行：令和4年（2022）3月
編集：伊勢原市教育委員会
〒259-1188 伊勢原市田中348番地



令和3年度文化芸術振興費補助金
（地域文化財総合活用推進事業）

■ 伊勢原市文化財保存活用地域計画とは

近年、過疎化や少子高齢化など社会状況が大きく変化していく中で、各地域の貴重な文化財についても継承者が見つからないまま滅失・散逸する例が少なくありません。この状況に歯止めをかけるため、文化庁は平成 30 年に文化財保護法を改正し、文化財保存活用地域計画（以下「地域計画」という。）の作成の制度化により、地方の文化財保護体制の強化を図りました。

この地域計画の作成は、以下の 3 つの効果が期待されています。

- 市町村が地域計画を作成することで、各地域の文化財行政が目指す方向性や取組の内容を“見える化”し、文化財の特徴を最大限に生かす。
- 中・長期的な取組目標を立てることにより、保存・活用の取組を計画的・継続的に実施していく。
- 文化財の専門家だけでなく、市民や観光関係部局、一般企業など、多様な関係者が参画した地域社会総がかりによる文化財の次世代への継承に向けた取組みを促進する。

■ 目的と背景

目的

伊勢原市は地域計画を作成することによって、市・市民・事業者・文化財所有者が伊勢原の歴史文化の価値と魅力を認識し、積極的にその保存・活用に関わることで、適切な保存と継承をはかり、歴史文化を地域の資産としてまちづくりにも生かしていきます。

背景

人口減少・少子高齢化	文化財保護のあり方	未指定文化財
・ 保存の担い手の高齢化 ・ 次世代への継承困難	・ 国主導の保存から 地域主体の保存・活用へ	・ 評価の機会がない ・ 多くが未指定のまま消失

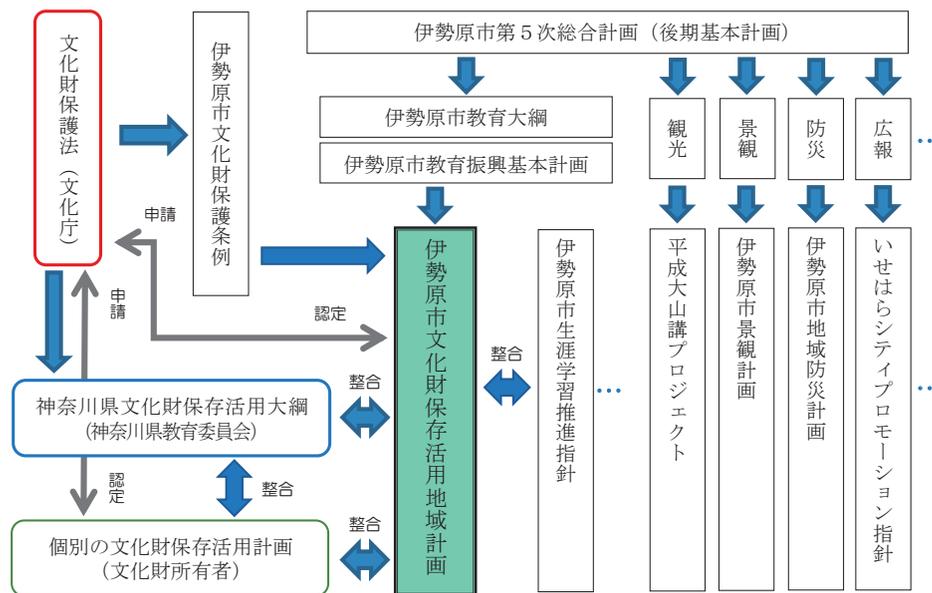
■ 位置づけと計画期間

位置づけ

平成 30 年の文化財保護法の改正により、都道府県によって作成される文化財保存活用大綱の策定、市町村による文化財保存活用支援団体の指定とともに、市町村が作成する文化財保存活用地域計画及び国指定等文化財の所有者等が作成する保存活用計画の文化庁長官による認定が制度化されました。

伊勢原市文化財保存活用地域計画は、令和 3 年 7 月に文化庁長官の認定を受けており、令和元年に策定された神奈川県文化財保存活用大綱を勘案し、伊勢原市歴史文化基本構想を継承発展させた計画です。

また、本市の行政全体の最上位計画である伊勢原市第 5 次総合計画後期基本計画、第 2 期伊勢原市教育振興基本計画や、関連するそのほかの計画や法制度との整合連携を図っています。



計画期間

本計画の設定期間については、通常の計画期間である5年間に現行の総合計画、教育振興基本計画の設定期間である2年間を加え、令和3年度（2021年度）から令和9年度（2027年度）の7年間としています。

伊勢原市の歴史文化

歴史文化の特徴

伊勢原の自然環境

伊勢原市域は、関東平野の南西部、西側に広がる丹沢山地との境界にあたり、多様な地形と適度な降雨、温暖な気候により、太古から多くの人々が暮らし、永い歴史が紡がれてきた。



田園地帯から望む大山

大山信仰の始まり

市域の北西にそびえる大山は、関東一円からも眺めることのできる単独峰で、山頂から縄文時代の土器が出土することからも、古くから人々の信仰の対象となってきた。古墳時代後期には、山裾に相模地域の最高権力者が眠る有力古墳が築造され、さらに奈良時代には日向山霊山寺（現・宝城坊）や大山寺、比々多神社、阿夫利神社等の神社仏閣が創建される。それらは、源頼朝、政子夫妻、関東管領上杉家、足利将軍家、秀吉、家康、家光といった時の権力者の庇護を受けることとなる。



大山山頂出土の縄文土器

大山で花開く江戸文化

庶民の生活が安定する江戸時代には、「大山詣り」が流行し、御師の布教、納め太刀といった独特の風習のほか、歌舞伎や落語、浮世絵等の題材となり、庶民の文化を生み出した。参拝のために大山道が整備され、各地からの人々の往来により、多くの業種が関わる一大産業に発展した。大山詣りは今も続いており、生きた文化財を体験することができる。

このように、伊勢原で暮らす人々は、いつの時代も大山とともに生きてきたと言えます、現在でも大山は市民の心的憧憬となっている。



豊國 大當大願成就有が瀧壺

文化財の特徴

■ 指定・登録文化財の現状

伊勢原市には国・県・市指定文化財が 65 件、国・市登録文化財が 14 件所在しています。中でも代表的な文化財である仏像等の彫刻は、文化財保護の黎明期である明治から大正期に国指定文化財となっているものもあり、伊勢原で暮らす人々が古くから文化財に関心を持っていたことがうかがわれます。また、江戸時代に盛んになった庶民信仰である「大山詣り」は現在も続いており、これに関連して今につながる多様な文化財が残されています。

一方で、民俗文化財や記念物等の比較的新しい分野の文化財については、指定・登録が進んでいないという傾向がうかがえます。今後、これらの分野についても調査及び評価を進めていく必要があります。

市域の指定・登録文化財の件数（件）

類 型		国指定	県指定	市指定	国登録	市登録	合計	
有形文化財	建造物	建築	2	—	5	7	—	14
		土木建造物	—	—	—	3	—	3
	美術工芸品	絵画	—	1	3	—	—	4
		彫刻	8	2	7	—	—	17
		工芸品	1	4	—	—	—	5
		古文書	—	—	2	—	—	2
		考古資料	—	—	4	—	—	4
歴史資料	—	—	—	—	1	1		
無形文化財	音楽	(1)	—	—	—	—	(1)	
民俗文化財	有形		—	2	2	—	1	5
		民俗芸能	—	1	1	—	1	3
	無形	風俗慣習	—	—	—	—	1	1
		民俗技術	—	—	1	—	—	1
記念物	遺跡	1	—	11	—	—	12	
	名勝地	—	—	2	—	—	2	
	植物	—	4	1	—	—	5	
伝統的建造物群		—	—	—	—	—	0	
文化的景観		—	—	—	—	—	0	
計		12	14	39	10	4	79	

※無形文化財の（1）は、長唄の団体構成員としての指定のため、件数には含めていない

■ 未指定文化財

市内に所在する無数の文化財のうち、市が把握し、ある程度の内容をつかんでいるものは 13,921 点となります。未指定文化財は、有形、無形、大きさ、素材、所有者等さまざまであり、ひとまとめにすることはできませんが、今後本市が取り組んでいく文化財の保存と活用のため、把握、検討を継続していく必要があります。



大山阿夫利神社の秋季例大祭（未指定）



大山こま製作技術（市指定）



木造薬師如来坐像（国指定）

■ 所有者ごとのまとめ

宝城坊の文化財

かつて日向山霊山寺と呼ばれた宝城坊は、平安時代の本尊を筆頭に時代を異にする数々の仏像が奉納され、それらを納める建物も時代とともに建て直されてきました。そこでは大規模な儀礼が執り行われ、境内や周辺の森が厳粛な景観を形成していたと考えられます。宝城坊には、こうした歴史を裏付け、互いに関連を有する様々な文化財が残されています。



大山詣りに関する歴史資料

江戸時代以降、今に続くまで多くの人々に支持されてきた「大山詣り」には、古文書、講に使う道具、玉垣、建具、景観に至る多種多様な文化財があり、また、過去の遺産ではなく、今も使用しているものも含まれています。このように、大山詣りは江戸時代から現在まで続いています。一方で、明治初年の神仏分離政策により、大山寺を中心とした多くの文化財が散逸したとされています。

現在大山に伝えられている文化財は、こうした社会の変化をくぐり抜けた歴史の証とすることができます。



宮大工手中明王太郎に関する歴史資料

手中明王太郎は、良弁僧正とともに大山へ来た大工の末裔とされ、代々、大山寺修造の棟梁を務め、その名と技術を継承してきました。歴代の明王太郎による社寺関係図面や建築関係文書、大工道具等が今に伝えられるだけでなく、実際に建てた建物が今も現存しており、比較研究が可能な点で貴重な資料といえます。



三之宮比々多神社の文化財

比々多地区の三ノ宮に所在する三之宮比々多神社は、相模国の三之宮であり、また、延喜式内社でもあります。神社周辺は明治時代から遺跡が集中することで知られ、特に後期古墳から出土した金銅装の副葬品は、県内随一の内容であると評価されています。また、これらの資料は神社伝来の資料とともに、比々多神社が中心となり保管、公開する取組を続けています。



山口家に伝わる歴史資料

江戸時代に地代官を務めた山口家は、明治10年代に当主左七郎が相州最初の自由民権結社「湘南社」の社長となりました。当時の活動の本拠地であった住宅が現存するほか、数多くの資料が残されており、これらの資料は、公益財団法人雨岳文庫が管理し、市民ボランティアとともにその保存・活用に取り組んでいます。



蝦夷国泰寺の関連資料

江戸時代末、幕府は、蝦夷地開拓の殉難者供養のために3つの官寺を創設します。そのうちの厚岸の国泰寺に第五世、第六世住職として本市から2人の住職が派遣されました。『日鑑記』など幕末の蝦夷地の様子を伝える貴重な資料のほか、市内には、帰国後に建てられた石造多宝塔が今に伝えられています。



■ 地域ごとのまとめ



伊勢原市域における文化財の集中地区

大山地区

大山詣りを中心とした有形・無形の文化財が色濃く残されている地区です。街道沿いには先導師旅館が建ち並び、奉納された玉垣や記念碑など、大山独特の雰囲気を醸し出しています。

大山阿夫利神社では、江戸時代から続く能狂言をはじめとした神事に演じられる無形の文化財や祭礼も行われており、江戸時代から続く大山詣りを今でも体験することができます。

もうひとつの拠点である大山寺では、鉄造不動明王（国重文）など中世以前の大山信仰を感じることができます。



日向地区

源頼朝、北条政子などが参拝した伝説を残す宝城坊、罪人の駆け込み寺として有名で徳川家康からも庇護を受けた浄発願寺、奈良時代の創建と考えられ南北朝時代の石塔や戦国時代の印判状など中世の文化財を今に伝える石雲寺の3つの寺院を中心とした信仰の歴史を特徴とし、多くの文化財と伝説を残す地区です。中でも宝城坊はひとつの寺として国指定重要文化財を10件保有する、東日本でも希有な存在といえます。



比々多地区

相模国三之宮である比々多神社を中心とした地区です。三之宮比々多神社は奈良時代には成立していたとされ、平安時代作とされる木造のこま犬の存在も当社の歴史を物語っています。また、周辺には古墳時代後期の古墳が多数点在し、当時の最高権力者の墓域であったと考えられています。旧石器時代から平安時代の遺跡も確認され、市域の古代文化発祥の地とされています。



伊勢原市のテーマ別文化財群

伊勢原市に所在する多くの文化財をテーマでつないでいくと、そこにストーリーを見ることができます。テーマにより文化財の組み合わせは何通りも想定でき、いくつものストーリーを描くことが可能となります。それぞれに描かれたテーマは、地域活動に取り上げることで、歴史文化の新たな一面の発見につながり、その価値を認識し、地域の資産として共有化されることにつながります。ここでは、本市の歴史文化を語る代表的なテーマを挙げます。

いせはらの古墳文化

古墳時代後期、市内の大山を望む丘陵地には多くの古墳が築かれました。中でも、三ノ宮に所在する古墳からは、金銅装の大刀や馬具など県内随一の副葬品が出土しており、この地域が当時の最高権力者を葬る墓域とされていたことがうかがえます。

大山の山裾である三ノ宮に古墳が集中していることから、大山は当地を治める人々にとって神聖な山として意識されていたと考えられます。



霊山大山の成立とその信仰

奈良時代以降、大山とその周辺には、霊山寺、石雲寺、大山寺、さらに比々多神社、高部屋神社、阿夫利神社等の延喜式内社が次々と創建されました。霊山寺や大山寺には、国・県の指定となった多くの仏像がおさめられ、古社にも永い歴史を物語る数々の文化財が伝えられています。

この頃から、聖なる大山が霊場としての形を整え、人々の信仰を集めていく姿ができあがったといえます。



鎌倉幕府を支えた武士たち

伊勢原には、鎌倉幕府の御家人である岡崎義実、石田為久、糟屋有季等の武将が館を構えていました。

近年の発掘調査により、館や寺院の跡等が発見され、当地と鎌倉が予想以上に強く結びついていたことが明らかになりつつあります。



文武両道の鏡、太田道灌

政治勢力が乱立し、権力闘争を繰り返す激動の関東を制した太田道灌は、関東一円で負けなしという戦功を挙げながら、それが仇となって主君に討たれた悲運の武将です。市内には縁の寺院、墓のほか、交流のあった心敬、万里集九等の文人の史跡も残され、文武両道の鏡、太田道灌の足跡をたどることができます。



江戸庶民の信仰と行楽「大山詣り」

徳川家康により武力を排除され、生まれ変わった大山は、山伏から転じた御師の活躍によりその信仰を広げ、庶民の間で大山詣りが大流行します。巨大な木太刀を奉納する納め太刀や瀧垢離、江ノ島や鎌倉と絡めた名所巡り等、信仰と行楽を兼ね備えた旅は、歌舞伎や落語、浮世絵にも取り上げられ、江戸庶民の憧れとなりました。

地域にとって大山の盛況は、経済的、政治的、文化的にも大きな影響があり、以後も地域の発展の基盤となっていきます。



伊勢原の文化財保護の課題

文化財の「保存」と「活用」は、文化財保護の目的達成のための主要な手段です。

文化財の「保存」の具体的な行為としては、指定制度などによる位置づけ、文化財の修理や適切な管理などが挙げられますが、それらのためには、その歴史的、芸術的価値や状態を把握し、ふさわしい取り扱いを選択するための「調査」が必要となります。また、文化財の「活用」に際しても、最大限に魅力を引き出し、かつ文化財を傷つけない取組とするためには、文化財を熟知していることが不可欠です。よって、文化財を保存・活用していくためには、その前提として、「調査」が重要となります。

以上のことから、本市の文化財保護に関する課題については、文化財の調査、保存、活用に大別し、整理しました。

調査に関する課題の整理

- 市域の文化財の戦略的、重点的な調査の実施
- 市域の文化財の所在、内容を把握する調査の推進
- 文化財の状態や保管状況を確認する調査の実施
- 収集した資料の有効活用に向けた調査・整理
- 関係機関との連携による文化財の調査体制の充実
- 市民団体等の調査に対する支援
- 文化財データの収集と適切な管理・公表
- 調査報告書の確実な刊行
- 埋蔵文化財調査の効率化、学術目的調査の計画作成



市内石造物調査

保存に関する課題の整理

- 指定・登録制度の積極的な運用
- 指定・登録件数が少ない分野への制度運用
- 文化財所有者による保存修理、管理のための資金確保
- 文化財所有者に対する保存修理、管理の支援
- 文化財所有者による保存活用計画の作成
- 所有者の高齢化の中での保存・管理ノウハウの継承
- 所有者、市民団体と連携した文化財の防災、防犯対策
- 市所有文化財の保管施設の確保、保管環境の整備
- 無形の文化財の伝承を担う人材の確保
- 地域の様々な文化財を一体的かつ効果的に保存するための仕組みづくり



串橋中世石塔群の整備状況

活用に関する課題の整理

- 市域の文化財に対する価値の共有化を促す公開事業
- 文化財の保存と活用の均衡を図り、消耗や損傷に対して十分配慮した活用方法の選択
- 文化財活用に関する市民団体の活動支援、市民団体の後継者育成
- 幅広い年齢層に対応する活用方法の検討
- 保存、活用を進める拠点施設の整備
- 地域に所在する文化財の教材としての活用
- 様々な媒体による文化財に関する情報発信
- 地域づくりと一体となった文化財の活用
- 地域活性化に向けた文化財の活用、そのための他業種連携

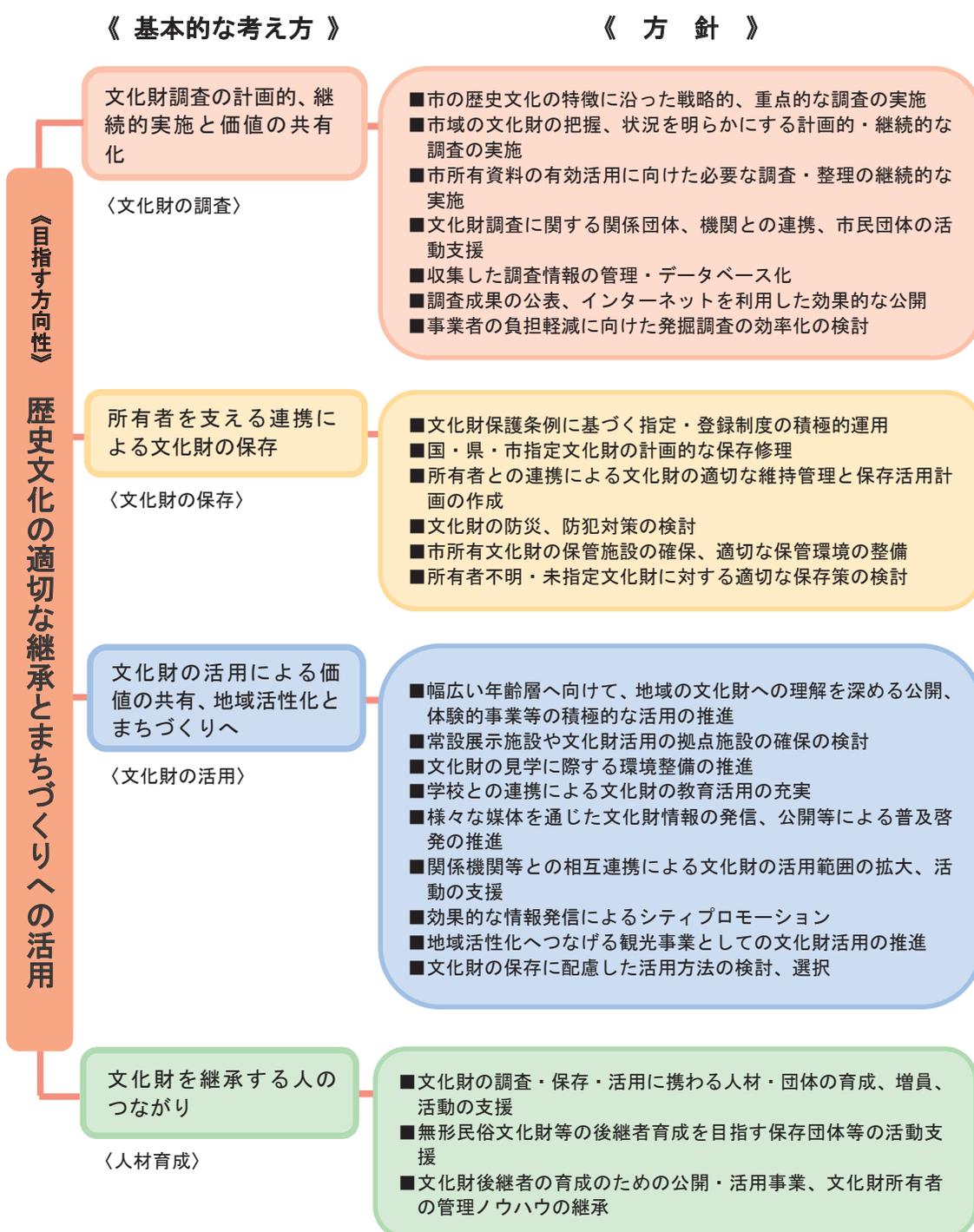


遺跡見学会

伊勢原の文化財保護に関する方針

伊勢原市の文化財保護は、「調査」を起点とし、明らかにした“価値の共有化”から、「保存」と「活用」を循環させることで“更なる価値の発見”が「保存」への原動力となり、魅力的な「活用」と結びつくことを目指します。その過程で、“ひとづくり”を図りながら、地域活性化やまちづくりへとつなげていこうとするものです。

このような循環のなかで文化財所有者、行政が一体となった計画的な保存、管理に努め、さらに所有者や事業者、市民団体等との連携により、周辺環境を含む文化財を地域ぐるみで継承していく環境づくりを進めます。



■ 伊勢原の文化財保護に関する取組

文化財の把握の方針に基づき、令和9年度までの計画期間においては、

- ①日本遺産の認定を受けて取り組んできた文化財の活用の流れを引き継ぎ、より効率的な取組を工夫して定着を図ること。
- ②その過程で、新たに文化財に関わる人を増やし、つながりを広げること。
- ③そうして得た市民の力を、調査や文化財所有者への支援につなげていくこと。
- ④文化財所有者の高齢化という課題に対しては、市教委との共同作業による文化財保存活用計画の作成等を進めることで長期的な文化財の維持管理に道筋をつけること。

を目指し、取組を進めていきます。

調査

文化財調査の計画的、継続的实施と価値の共有化

- 市民と連携した調査
 - ・ 市内石造物調査
 - ・ 団体による文化財調査への支援
 - ・ 市域の重要遺跡に関する学術調査の検討
- 専門家による調査
 - ・ 無形文化財状況調査
 - ・ 大山関係文化財の調査
 - ・ 市史資料等の再整理
 - ・ 埋蔵文化財確認調査
 - ・ 埋蔵文化財本発掘調査の実施方法の検討
 - ・ 未調査建造物の補足調査
- 調査成果の共有
 - ・ 文化財資料のデータベース化



市内石造物調査



民間工事に伴う発掘調査

保存

所有者を支える連携による文化財の保存

- 保存を優先すべき文化財の検討
 - ・ 文化財の指定・登録の推進
 - ・ 指定文化財の見直し
- 保存のための計画の作成
 - ・ 重要文化財の保存活用計画作成
 - ・ 宝城坊収蔵庫の整備計画検討
 - ・ 個人所有文化財の保存策の検討
 - ・ 市指定遺跡の整備の検討
- 文化財の防災・防犯
 - ・ 指定文化財の災害時対策の検討
 - ・ 市所有文化財の保管場所確保
 - ・ 宝城坊防災施設整備
- 保存管理のための資金の確保
 - ・ 文化財保存管理補助金の交付
 - ・ クラウドファンディングの検討



宝城坊防災施設整備



宝城坊本堂平成の大改修



文化財を保存している旧堀江邸

活用

文化財の活用による価値の共有、地域活性化とまちづくりへ

- 調査成果の公開
 - ・ 考古資料展
 - ・ 遺跡調査報告会
 - ・ 文化財資料展
 - ・ 文化財フェスタ
 - ・ 文化財特別公開
 - ・ 市民団体による文化財展示
 - ・ 文化財特別公開
 - ・ 発掘調査現地見学会
- 学びの場の提供
 - ・ 古文書講座
 - ・ 地域連携文化財講座の開催
 - ・ 文化財講演会
 - ・ 文化財ウォーク、史跡めぐり
- 教育機関における文化財の活用
 - ・ 小中学校への出前授業
 - ・ 学習教材の制作、配付
 - ・ 宿坊体験型教育旅行の誘致
 - ・ 教員研修
 - ・ 小中学校での無形の文化財体験講座
- 文化財を活用した観光施設等の整備
 - ・ 解説案内板・標柱の設置
 - ・ 文化財拠点施設整備の検討
- 情報発信
 - ・ 文化財関連図書の刊行・頒布
 - ・ 文化財ホームページによる情報発信
 - ・ 英語による文化財情報の発信
 - ・ 歴史文化財映像の制作、公開
- 日本遺産構成文化財を活用したまちづくり
 - ・ 日本遺産構成文化財の整備
 - ・ 日本遺産展示会の開催
 - ・ “おおやまみち” まちづくりサミット
 - ・ 日本遺産「大山詣り」体験ツアー
 - ・ 大山火祭薪能
 - ・ 日本遺産「大山詣り」商品開発
 - ・ 文化財保存活用寄附制度の運用・発展
 - ・ 文化財を活かした観光拠点づくり



考古資料展



大山能楽講座



文化財関係刊行物



高部屋神社参道の改修

人材育成

文化財を継承する人のつながり

- 人材育成
 - ・ 歴史解説アドバイザーの養成
 - ・ 専門家による無形の文化財体験教室
 - ・ 文化財データベースの作成に向けた人材育成
- 保存・活用の担い手の支援
 - ・ 文化財活動市民団体の支援
 - ・ 文化財活用市民団体の活動形態の検討
 - ・ 文化財管理マニュアルの作成



大山能狂言親子教室